

1 テーマ 木の実の大きさと減り方はあるか

2 研究の動機

- 昨年度の研究・・・いろいろな実のタネの名前調べ
- 気がついたこと・・・実が減っていく
- 考えたこと・・・動物や鳥が食べている？
- 予想・・・大きな実から食べている？

○今年度の研究・・・**木の実の大きさと減り方の関係**

3 はじめの疑問

- ・木の実の減り方に実の大きさは関係があるのか。
- ・どんな動物が木の実を食べているか。

4 調べた方法

- (1) 野鳥公園を回って、どこにどんな木の实があるか調べた。
(10 月 30 日～11 月 6 日)
- (2) いろいろな木の实を集めて大きさを
ノギスで測った。
- (3) 調査する木を決めて、枝に印をつけた。(11 月 15 日)
- (4) 印をつけた枝の实が減る様子を調べた。(11 月 15 日～1 月 10 日)
- (5) センサーカメラを使って、木の实を食べにくる動物を調べた。

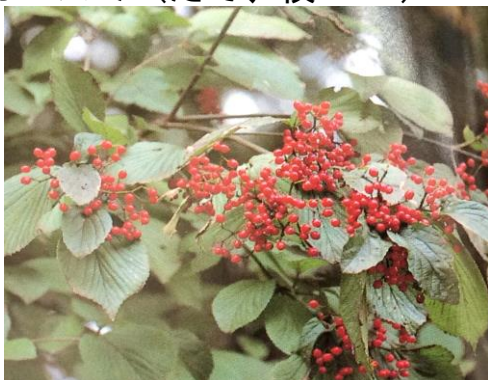


5 調べた結果・わかったこと

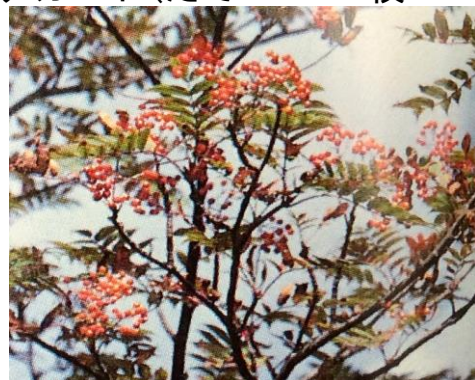
(1) フィールドワークの結果

- ・野鳥公園内には、山奥より草地に木の实がたくさんあった。

ガマズミ (たて、横 8 mm)



ナナカマド (たて 7 mm 横 8 mm)



アオツツラフジ(たて 7 mm 横 9 mm)



ヤマコウバシ(たて 6 mm 横 8 mm)



- ・ガズミ、ナナカマド、アオツツラフジ、ヤマコウバシは、カウントを始める前になくなっていった。(11月15日)
- ・カキはすぐになくなってしまった。(11月29日)

カキ
(たて 6 cm 横 6.3 cm)



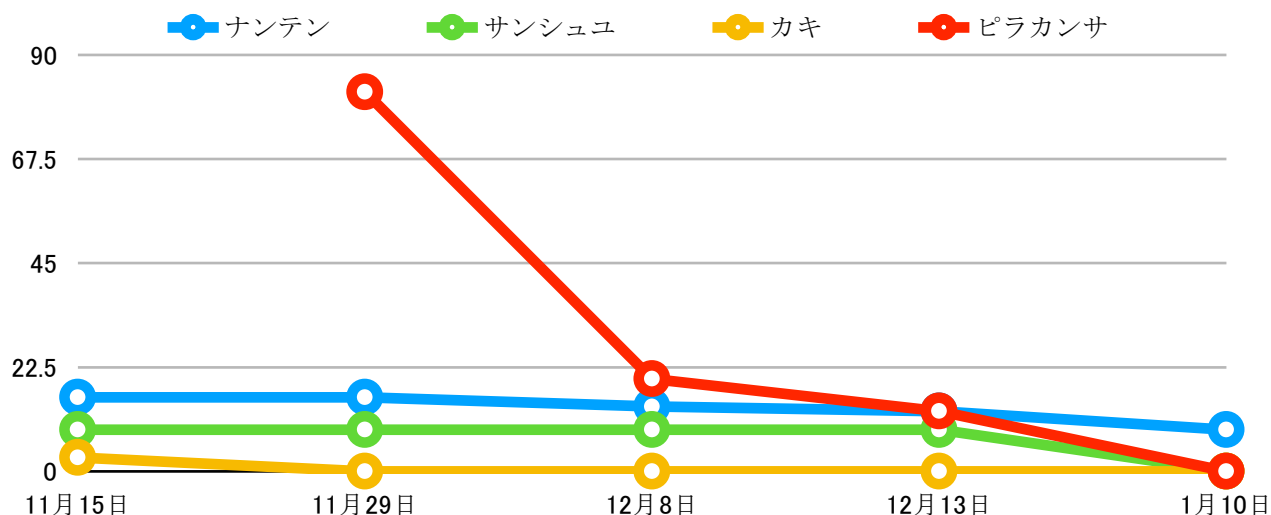
ナンテン
(たて 7.5 mm 横 7 mm)



サンシュユ
(たて 1.9 mm 横 1.1 mm)



ナンテン・サンシュユ・カキ・ピラカンサの実の減り方

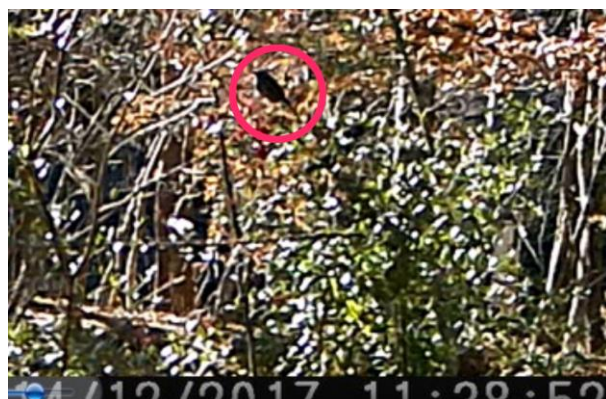


- ・1 cm以下の実については、減り方は実の大きさや色には関係がなかった。

(2) センサーカメラの結果（ピラカンサの木）



アオバト



ヒヨドリ

- ・ アオバトとヒヨドリが実を食べていた。
- ・ ピラカンサの木の实の下にアオバトの羽が落ちていた。

(3) その他 シカと鳥の食べ方

- ・ 枝、葉、実が丸ごと引きちぎられていたナンテン。
- ・ 一つ一つ実がとられていた。（新しく出来た建物の前）

枝ごととられていたナンテン



一つ一つとられていたナンテン



考察

- 水分の多い実は早くなくなり、乾いているものは残った。
- 種が多かったり種が大きい実はあまり食べられていない。
- 種が少なく種が小さい実が早く食べられている。
- 果肉が特に多いものが早く食べられたと思う。(カキ)

早く食べられたもの

- 果肉が多い(カキ)
- 水分が多い(アオツツラフジ)
- 種が小さいか少ない

遅くまで残ったもの

- 水分が少なくパサパサしている。(ピラカンサ)
- 種が大きいが多い(サンシュユ・ナンテン)

☆水分 ☆果肉

反省

大きさの違う木の実を数えることをもっと早くから始めて、どのように無くなるのか調べたかった。

感想

鳥や動物は人間が観察していると出て来ないので、センサーカメラをしかけたら昼や夜に出てきたので良かったです。

私は去年は実を集めて名前を調べるだけだったので、なぜ減るか知らなかったけど今年減り方は大きさに関係があると思っていたので調べたのです。来年はなぜ減るのかテーマを決めてやりたい。

参考文献

- 中川 重年・吉山 寛 著『樹に咲く花①』山と溪谷社・2000 年
- 中川 重年・吉山 寛 著『樹に咲く花②』山と溪谷社・2000 年
- 中川 重年・吉山 寛 著『樹に咲く花』山と溪谷社・2000 年
- 野外ハンドブック・6 樹木 1
- 野外ハンドブック・7 樹木 2
- jugemusha.com 樹木図鑑